

- 工事実施基本計画策定以降に計画を変更するような洪水が発生していない場合は、既定計画の基本高水のピーク流量の検証を行うこととし、既定計画の基本高水のピーク流量、流量データによる確率からの検討、既往洪水による検討を総合的に判断して基本高水のピーク流量を設定
- 一般的に基本高水の見直しを行う場合や新たな方法による基本高水の確認を行う場合は、既定計画の基本高水のピーク流量、流量データによる確率からの検討、既往洪水による検討に加え、雨量データによる確率からの検討、確率規模モデル降雨波形による検討を総合的に判断して基本高水のピーク流量を設定

基本高水のピーク流量の検討

考え方

一般的な基本高水の見直し

最近のデータまで含めた治水計画とすべきであるが、変動する毎年のデータを用いて頻繁に見直すことは長期的な観点で整備する治水計画の設定としては適切でない。

このため、一般的には、以下のような場合に見直しを行っている。

- ・ 計画策定以降に観測された洪水流量がこれまでの計画を上回っているなどの場合
- ・ 最近の洪水流量の検証から見直す必要がある場合 等

新たな方法による基本高水の確認

工事実施基本計画では、当時の雨量データ等の蓄積状況や解析技術等を踏まえ、基本高水のピーク流量を算出しているが、使用した方法の中には、当時の制約条件等により近年一般的に使用されている方法と比べて、必ずしも適当でない場合がある。このような場合に新たな方法により基本高水の確認を行っている。

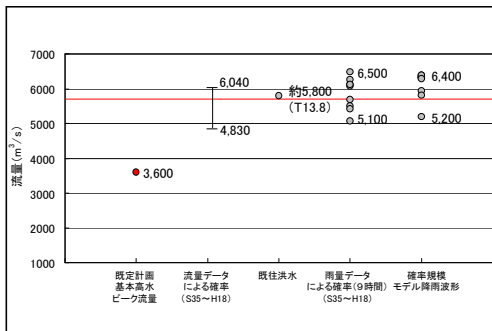
(例)

- ・ 降雨継続時間に1日を使用しており、計画対象降雨が日界問題を有する場合
- ・ 基本高水のピーク流量において上下流バランスが崩れている場合
- ・ 降雨の時間・空間分布特性を適切に反映できない合理式の場合 など

既定計画の基本高水のピーク流量の検証

工事実施基本計画策定以降に計画を変更するような大きな洪水が発生していない場合

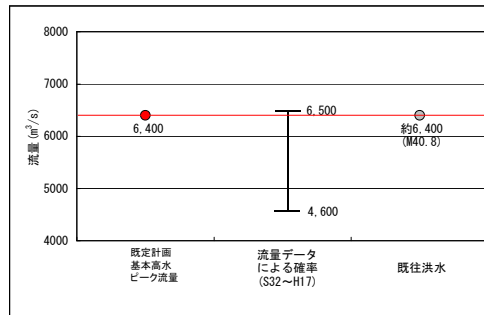
【小丸川の事例】



- ・ 既定計画の基本高水のピーク流量
- ・ 流量データによる確率からの検討
- ・ 既往洪水による検討
- ・ 雨量データによる確率からの検討
- ・ 確率規模モデル降雨波形による検討

総合的に判断して基本高水のピーク流量を設定

【円山川の事例】



- ・ 既定計画の基本高水のピーク流量
- ・ 流量データによる確率からの検討
- ・ 既往洪水による検討

総合的に判断して基本高水のピーク流量を設定